

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(12)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(12)—

1. 始めに

前報(11)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-12 と ThorensTD124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

LONDON 360R 56009

モーツアルト ディヴェルティメント 17 番

ウイリー・ボスコフスキー指揮ウイーンモーツアルト合奏団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

LONDON 盤ということで、DECCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。クレジットによれば、この盤は、ダイレクトカッティングシステムと称し、テープ再生装置とカッティング装置を直結し、テープ再生装置のヘッドアンプとカッティング装置のカッティングアンプは真空管アンプを使用しているとのこと。

LINN LP-12 の再生では、クレジット記載内容を反映して、実に柔らかい音調で広大な音場感を実現し、各パートの定位も明瞭です。

ThorensTD124 の再生では、基本的には、LINN LP-12 と同様、クレジット記載内容を反映していますが、ウオームトーン気味で生き生きとした演奏が楽しめます。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorensTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、ダイレクトカッティングの音質を、LINN LP-12 と ThorensTD124 それぞれの味わいで再

現できています。

以上